

蚊(か)の発生防止対策を知ろう

蚊は成虫になると、空中を飛翔するため防除が難しくなります。そのため、水中にいる幼虫(ボウフラ)のうちに防除することが対策として非常に有効となります。また、飛翔してしまつた蚊が持つ感染症から身を守るために、蚊に刺されないための成虫対策も大切です。

【幼虫対策その①】
 ■たまり水をなくす

魚がいない池や下水溝、水たまり、水田、墓地の花立、空き缶、雨ざらしになっている容器など少量の水が溜まる場所であればボウフラは発生します。不要なたまり水があれば捨てましょう。

【幼虫対策その②】
 ■不要物・廃棄物は速やかに撤去する

家の庭や畑等で野ざらしになっている不要物(バケツ、タンクなど)や廃棄物はボウフラにとつて、格好の住処(すみか)になってしまいます。そういったものがあれば撤去しましょう。

【幼虫対策その③】
 ■汲み置き水は1週間に1回は換水する

農作物に水を与えるため、畑に容器等を設置し、水を汲み置きしているかたも多くいると思います。そのような場合は、1週間に1度は換水を行い、ボウフラが成虫にならないように対処を心がけましょう。

【成虫対策その①】
 ■肌の露出を控える

蚊が潜んでいるような場所(畑や田んぼ、山など)に行く時は肌の露出を控え、刺されにくい服装(長そで・長ズボン)を心がけましょう。

【成虫対策その②】
 ■忌避剤を使用する

祭りなどで夜の外出が多くなる夏。暑さも厳しくなり露出の多い服装になる場合は、忌避剤(虫よけスプレー)を使用しましょう。忌避剤は吸血行動を阻止する効果があり、感染症予防にも効果的です。

【成虫対策その③】
 ■生い茂った藪や草むらの草刈を行う

藪や草むらは風通しや日当たりが悪く、蚊が潜む格好の場所となります。生い茂っている場合は草刈を行い、風通しと日当たりを良くしましょう。

【成虫対策その④】
 ■網戸・防虫網を設置する

睡眠時に蚊に刺されてしまうことも多いのではないのでしょうか。蚊はほんの少しの隙間があれば屋内に侵入します。網戸が破れている場合は補修しましょう。

あなたの身近にありません蚊(か)?

自分の身を守るためにも身の回りの改善を行いましょ

生い茂った草むら



雨ざらしになっている容器



使われなくなったタイヤ



植木鉢の皿にたまった水



そんなまさか蚊(か)！の話

皆さんは「蚊^か」に対してどのようなイメージを持っていますか？
「刺されてもかゆいだけ」「ハチとかに比べたら怖くない」など——
「危険な生物」とは少しかけ離れたイメージではないでしょうか。
しかし…

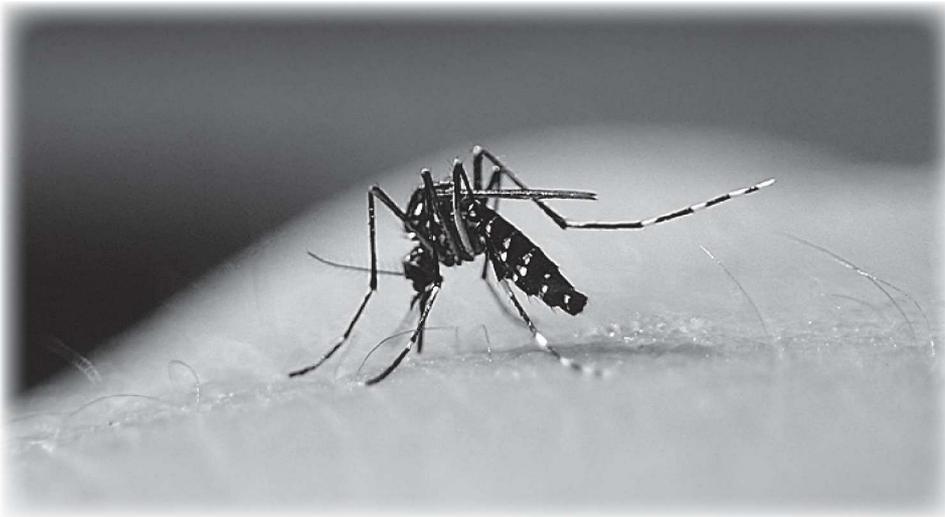
非常に恐ろしい生き物なんです。

平成26年8月、日本国内で約70年ぶりとなるデング熱の国内感染が確認されました。感染者数は162名にまでのぼり、その感染力は非常に強力なものでした。デング熱は重症化すると出血熱や Dengue Shock Syndrome 症候群などを発症し、最悪の場合死に至ることもあります。

デング熱のほかにも日本では日本脳炎が広く知られており、海外にはマラリアやジカウイルス感染症といった危険な感染症を媒介する蚊もいます。特にマラリアに感染して命を落とす人は非常に多く、蚊は「世界で最も人を殺している生物」と言われるほど、恐ろしい生き物なんです。

そんなの遠い国の話——なんて思っていますが、地球温暖化やヒートアイランド現象等によって、危険な感染症を媒介する蚊の生息域は拡大しており、日本においても感染症がまん延する危険が迫っているのが実情です。

迫りくる恐ろしい感染症から身を守るためには、一人ひとりが蚊の発生防止について考える必要があります。



日本に生息する代表的な蚊のひとつ「ヒトスジシマカ」。

吸血の際に抗凝血作用物質を注入し、これによってアレルギー反応を起こすため、かゆみが生じる。また、デングウイルスやジカウイルス等を媒介する。

蚊^かの生態を知ろう——

日本では「アカイエカ」、「ヒトスジシマカ」、「チカイエカ」の3種類が代表的な蚊として知られています。また近年、デング熱やジカウイルス感染症を媒介する代表的な蚊「ネッタシマカ」も国際空港の周辺で捕獲されたことがあります。

蚊は卵↓幼虫（ボウフラ）↓蛹（さなぎ）↓成虫の順で成長します。幼虫から蛹（さなぎ）までは水中に生息し、産卵から12〜17日後で成虫になります。普段は風通しの悪い草むらなどに生息しており、人が発する炭酸ガスや皮膚のニオイ、温度を感じて人に近づいてきます。雄は花の蜜などをエサにしており、雌だけが産卵のために吸血をします。1回の産卵で100〜200個の卵を水中に産みまします。生命力が非常に強く、水たまりのような少量の水があればどのような場所であっても繁殖することができます。気候等の条件が揃えば爆発的に発生します。晴雨を繰り返す日が多くなるこれからの時期は要注意です。